

2023年4月2日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「イエスの十字架」

聖書：マタイによる福音書27：45～56

イエスは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれて死んでいく。その言葉には何とも寂しげで、孤独感に満ち、惨めさが漂い、これでもかと小さく、弱くされゆく姿がある。イエスの死には、美化された勇ましき、勇敢な最後の描き方はない。それは何故なのか？多少の美化が成されても良かったのではないか？人間は自ずと神に対し、神々しさを求めるものであるが……。しかし福音書は、そうは描かない。

51節「そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け」、とあるがそれは何を意味するのか？エルサレムの神殿は、歴史の中で権力と結び付き、財力と結び付き、やがてそれは力を持たない、弱くされ小さくされた存在、お金を持たない貧しくされた存在、あるいは体に障がいを持った者たちを寄せ付けない閉鎖性をエルサレムの神殿は帯びていった。神殿の垂れ幕は、聖なる空間を清く保つために、民衆に対し、社会に対し堅く閉ざされた近寄りがない仕切りであったと言える。イエスの死は、その神と人との距離を無限に遠ざけ、さえぎる隔ての垂れ幕を真っ二つに切り裂く出来事だったということである。

さらに51節の続きに「地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った」とは何か？このマタイ福音書の初めに「イエス・キリストの系図」がある。その系図の意味は、全てはイエス・キリストに繋がっているという意味。沖縄も祖先を大事にする文化があるが。イエスの死は、今を生きている人々のために留まらず、すでに眠りに付いた人々も含めて、イエス・キリストの憐れみと慰めが注がれ、恵みと愛が注がれていることを、マタイ福音書は強調しているように思う。

最後に、十字架上で語られた「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」というイエスの言葉を思い起こしたい。その言葉には何とも言えない、寂しさ、惨めさ、虚しさが漂う。「見捨てられる」ことは、時に恨みへと変わるものであったりする。そういうぎりぎりの行為がそこにはある。そこまでして、……いや、そのようにすることでしか、神の愛を私たちに示すことが出来なかった。そのことに私たちはどれほど深く感じ取ってきたか？

イエスの死、イエスの十字架、イエスの苦難が何であったのか、また、私にとっての十字架とは何なのかを、この時期ゆえに深めていきたい。（神谷）